

# のら 深まる。ピースおおさかの 運動 現場 危機

文箭 祥人

＊大阪市と大阪府が出資する公立の平和資料館、ピースおおさか

約1年前の2013年4月にピースおおさかは、展示リニューアル構想を発表。大阪空襲を中心とした展示に変えて、これまで展示してきた日本軍の加害の展示を撤収しようというものだ。この発表を受け、ピースおおさかが危機にあるとして、市民団体「ピースおおさかの危機を考える連絡会」が結成された。

この1年間、当連絡会は、ピースおおさかや大阪市府の担当部局に対して、ピースおおさかの設置理念の柱の一つ「1945年8月15日に至る15年戦争において、戦場となった中国をはじめアジア・太平洋地域の人々、また植民地下の朝鮮・台湾の人々にも多大な加害を与えたことを、私たちは忘れません」を守り、日本の加害の展示の撤去に反対する、という訴えを続けてきた。何回も要望書を出し、交渉の場を重ねてきた。

＊しかしながら、危機は深刻になってきた

今年2月に、突如、ピースおおさかが「展示リニューアルに当たつての留意点として」を発表。留意点のひとつは「政府の統一の見解を

踏まえて」である。政府の統一の見解が何を指すのか、具体的なことは書かれていないが、政府の意向に沿った展示に変えようというものだ。政府は間違ふことがあるというところが、先の戦争の教訓だつたはずだが、それを無視する態度である。この留意点については、陳情書で多くの市民が疑問や心配を寄せている。今年5月の大阪市議会・教育子ども常任委員会、この件について、共産党の小川議員が質問をした。「日本はかつて国の支配から逃れて自由に考える行動ことができず、それが泥沼のあの戦争につながつていった。そういう教訓を持つ国だからこそ、憲法では地方自治が保障されている。市民の立場で、自分たちが考えて決めた展示を貫くのが望ましい。ピースおおさかの自主性が発揮されるようにし、政府の統一の見解ではないリニューアル展示となるように進めるべきだと思ふが、いかがか」の質問に対して、市の蔵田生涯学習部社会教育施設担当課長は「展示においての基本的な考え方をわかりやすくするため改めて明記した」とだけ回答した。市は市民の疑問や心配を無視し、「政府の統一の見解を踏まえつつ」を維持する態度だ。

「展示に当たつての留意点」にはさらに「展示の用語等について、府内の中学校において広く使用されている教科書に準拠する」とある。しかし、展示リニューアルには、教科書に準拠していると思われる箇所であっても、韓国併合、三・一独立運動と五・四運動、強まる戦時体制、等といった事項が欠落している。文部科

学省の検定強化で、日本の加害や治安強化に関する史実は、教科書から大幅に削除されてきている。ピースおおさかは、こうした動きに追随している。政府にとつて都合のいい広報施設に変質してしまふ。危機が深刻化した。

この3ヵ月後、5月の大阪市議会・教育子ども常任委員会では、さらに展示リニューアルに関する新たに深刻な危機が出てきた。自民党の床田正勝議員が「これまでのピースおおさかではなく、新たな博物館機能ができるのであれば、これまでの設置理念を引き継ぐのではなく、新たな設置理念を作るべきだと考えておりますが、教育長の考えを聞かせてください」と質問した。新、ピースおおさかができるから、設置理念も変えろと言いたいようだ。山本教育長は床田議員に同調するように「リニューアルに伴う考え方のいわゆる理念を、できるだけ早期に作成できるように検討したい」と回答した。我々だけではなく展示リニューアルに抗議・異議を訴えている多くの市民団体・研究団体が要求している設置理念の継続に対して、大阪府は「新たな理念」を提示しようとしている。その理念がどういうものなのか、市民側には示されていない。

この理念に、加害を忘れないという理念が引き継がれないのは間違いないであろう。ピースおおさかの岡田館長は、これまで「設置理念は変えない」と述べている。設置理念はそのまま、新たな理念がでてくるということだが、設置理念は変えずにどこかにしまつておいて、新たな理念が顔を出してくるのだ。「20年以上の

ピースおおさかの歴史は展示しないのか」の我々の質問に「展示しない」と明言している。つまりは、背骨である理念を変えてしまい、加害・被害の両面を展示してきたピースおおさかの歴史を自ら無きものにしようとしているのだ。

さらに危機が明らかになってきた。情報公開請求によって「展示リニューアル検討に当たったの基本姿勢」監修委員会確認事項（2014年1月24日）を得た。それには「近代日本の歩みに触れるに際しての基本認識」が書かれている。後半に、次のようにある。「反省は自らの歴史に痛みと責任を感じ、それに耐える勇気を与えると同時に、その反省を踏まえ、戦後新たに構築した国際協調主義、自由・公正・公平の価値の認識の下に、今日まで築いてきた日本の繁栄と国際貢献の実績に対する誇りを自覚させる」とある。今日まで築いてきた日本の繁栄と国際貢献の実績に対する誇りを自覚させる、といっているが、それならば日本の戦後の平和貢献への歩みに誇りを持つべきである。さらには、展示リニューアルの展示項目を見ると、日本国憲法の文字がない。全くもって、平和資料館として恥ずかし過ぎる。展示リニューアルの中心に位置する監修委員会の基本姿勢から類推すると、平和資料館の終盤の展示が「誇りの自覚」を促すものになるということだろう。これが本当に平和資料館なのかと、愕然とする。

また、情報公開請求で、市長への報告書「リニューアル案」の書面を得た。たったA4判1枚であるが、そこには、「平和への取り組みを

知る（NGO・自衛隊等）」と書かれている。ピースおおさかがHPで公表した展示リニューアルの中身に「自衛隊」の項目はないにもかかわらず、市長への報告書には出ている。市長報告に自衛隊をどのように展示するかは書かれていない。5月の大阪市議会教育子ども委員会、無所属の福島議員が自衛隊の活動も展示すべきだとの意見を述べたが、市の蔵田氏は何も回答しなかった。美化された自衛隊が展示に登場するのではないかと危惧するのは当然である。

1991年に開館したピースおおさか。それは1971年に始まった大阪空襲を語り継ぐ戦争体験者の大阪の主婦たちの活動が起点となってきた平和資料館である。二度と戦争しないように、平和を築きたいという強い思いがまつている。そして、市民が集めた空襲犠牲者の名簿をピースおおさかが管理し、その名前を刻んだ碑がピースおおさか館内にはある。

ピースおおさかを作ったひとたち、空襲犠牲者のひとたちがどう見ているのだろう、静かに考えるべきだ。

ピースおおさかは展示リニューアル工事のため、8月31日から休館する。予定では、来年4月にリニューアルオープンする。

（ぶんや・よしと）ピースおおさかを考える連続会、大阪空襲訴訟を支える会

## 運動の現場から 沖繩の今

由井 晶子

### \*政府、沖縄新基地建設にばく進

7月1日の集団的自衛権行使容認の閣議決定の翌朝、沖縄メディアは激しく反発した。沖縄タイムスは1、2、3面を大きな黒に白抜きされた大きな横見出しでこれを報じた。31、30の社会面は、「戦場への一里塚」「沖縄・標的の島」基地集中「まっ先に狙われる」と、沖縄の歴史体験から、国境の島々の怒りと不安の声を特集した。

琉球新報は、「日本が悪魔の島に」と社説を掲げるとともに、辺野古の普天飛行場代替施設建設のため、米軍提供水域拡大と、埋め立て工事準備の調査費用支出も同時に閣議決定されたことを解釈改憲とほぼ同等の大きさで報じた。実際、1日当日さっそく海上保安庁、沖縄防衛局などの船が14隻も出動。V型飛行場の建設予定地の作業ヤード（埋め立て工事のブロックや機材の置き場）建設に向けた既存施設の解体工事が行なわれていることを、両紙はくわしく知らせた。

政府は、11月16日の県知事選前に、もはや新基地建設は逃れられないと県民多数が考えるところまで進めておきたい。東京オリピック（2020年）の前年までに普天間代